

**令和7年度進行管理・評価シート**  
**熊本市歴史的風致維持向上計画（令和2年6月24日認定）**  
（軽微な変更 最終届出日 令和7年5月26日）

**□進捗評価シート(様式1)**

①組織体制(様式1-1)		
1 熊本市歴史的風致維持向上計画の推進体制	.....	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 熊本市景観条例・景観計画による誘導	.....	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1-1 歴史的風致形成建造物助成事業	.....	3
1-2 熊本城復旧事業	.....	4
1-3 景観重要建造物・景観形成建造物助成事業	.....	5
1-4 町並み復旧保存支援事業	.....	6
1-5 町屋等活用促進事業	.....	7
2-1 町並みづくり助成事業	.....	8
2-2 道路空間整備事業	.....	9
2-3 空地等活用事業	.....	10
3-1 文化団体への助成事業	.....	11
3-2 伝統技術普及継承事業	.....	12
3-3 地域コミュニティづくり支援事業	.....	13
3-4 くまもと工芸会館管理運営事業	.....	14
4-1 坪井川舟運検討	.....	15
4-2 歴史・文化を活かした観光体験事業	.....	16
4-3 観光周遊促進事業	.....	17
4-4 熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バスの運行	.....	18
4-5 川尻米蔵利活用事業	.....	19
5-1 「復興城主」募集事業	.....	20
5-2 歴史文化体験学習事業	.....	21
5-3 歴史まちづくり教育事業	.....	22
5-4 情報発信推進事業	.....	23
5-5 歴史まちづくり調査研究事業	.....	24
5-6 「文化財保存活用地域計画」の策定検討	.....	25
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の保存・活用の推進	.....	26
2 文化財の防災	.....	27
3 文化財の保存・活用の普及・啓発	.....	28
4 埋蔵文化財の取り扱い	.....	29
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	.....	30
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	.....	31

評価軸①-1  
組織体制

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
熊本市歴史的風致維持向上計画の推進体制	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容

- ・景観担当部局と文化財担当部局を事務局とした庁内推進体制を設置するとともに、歴史まちづくり法第11条の規定に基づく「熊本市歴史まちづくり協議会」において、計画の推進や変更等の連絡・調整・協議等を行い、事業の推進を図る。
- ・必要に応じて、本市の都市計画や景観、文化財保護等に関する審議会、並びに文化財や歴史的建造物の所有者等と連絡調整を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

①法定協議会等の開催状況

事業進捗や今後の取組等について、以下の通り、法定協議会等に報告・意見聴取を行った。

- ・熊本市歴史まちづくり協議会(第12回:R8年3月17日)及び庁内調整会議(R8年2月20日)
- ・町屋等利活用モデル事業選定のため熊本市歴史まちづくり協議会部会を開催(R7年7月9日)

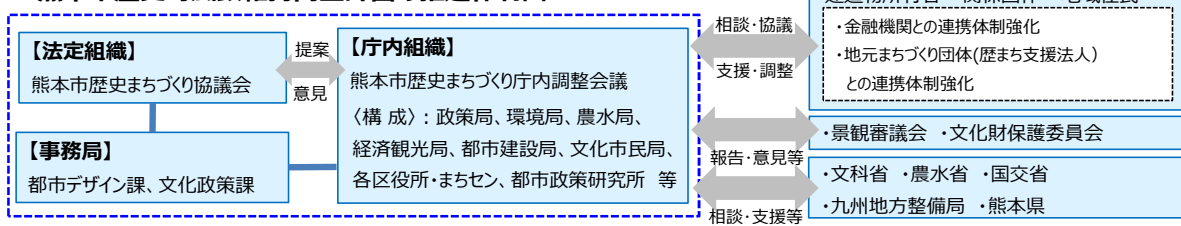
②地域住民、関係団体等との連携状況

- ・地域との継続的な対話を通じて、地域課題等の抽出に取り組んでいる。
- ・歴史的風致維持向上支援法人(歴まち支援法人/R4年5月指定)と協働し、各重点区域において、町屋調査及び町屋等マッチング支援事業等の事業に取り組んでいる。
- ・町屋等の未指定建造物の歴史的価値調査のため、県ヘリテージマネージャー及び大学等と連携し、調査事業に取り組んでいる。
- ・金融機関との連携協定に基づく人材交流や、各支援メニューによる所有者や事業者等への支援に取り組んでいる。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も、地域住民、関係団体(歴まち支援法人や金融機関等)との更なる連携体制の強化を図るとともに、協働事業による計画の推進を図っていくこととする。

状況を示す写真や資料等

■熊本市歴史的風致維持向上計画の推進体制図



法定協議会の開催

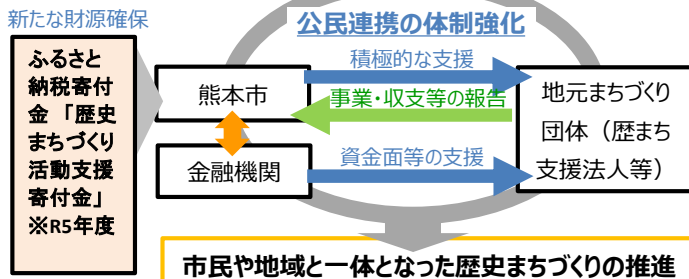


熊本市歴史まちづくり協議会への報告・意見聴取 (R8.3.17開催)

地域との連携



継続的な対話(R7)



市民や地域と一体となった歴史まちづくりの推進

歴まち支援法人との連携



R7年度町屋調査



R7年度町屋等マッチング支援事業



R7年度くまもと古町地区実証実験



県ヘリテージマネージャーの調査事業

評価軸②-1  
重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	令和7年度
熊本市景観条例・景観計画による誘導		現在の状況 □実施済 ■実施中 □未着手

計画に記載している内容  
平成21年(2009)10月に熊本市景観計画を策定、あわせて熊本市景観条例を制定し、総合的な景観形成を進めている。本市の歴史的風致は市内各所に広がっていることから、事業展開に合わせて景観行政と連携し、歴史的風致の維持向上に努める。  
・城下町地区は、重点地域「熊本城周辺地域」等に含まれ、市街地と熊本城とのあいだのゆとりある眺望等を保全するため、熊本城を望む視点場及び天守閣からの眺望に配慮した景観形成基準等を定めている。  
・川尻地区は、「歴史的な街並み地区」として、建造物等の色彩に関し、本地域で推奨する色彩や避けてほしい色彩等を定めている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・景観条例・景観計画に基づく届出において、景観形成重点地区内の建築物等について、周辺と調和する色彩や意匠とするよう理解を求めている。  
・R7年度は、184件の届出等(R8.1.31時点)に対し、景観形成基準に沿った協議を行い、良好な景観形成に努めた。  
・また、さらなる良好な景観形成に向け、R6年1月に景観計画を改定し、視点場の追加・改善や景観誘導による将来イメージ図を掲載、公共施設等のデザイン調整の仕組みなどを反映した。  
・景観計画と併せ、新町・古町・川尻地区では、町並みづくりガイドラインを地域と協働で策定しており、町並みづくりの基本方針をはじめ、町屋や一般建造物等の保存・修景基準など、町並みづくりの指針として定め、景観誘導を図っている。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している  
□計画どおり進捗していない  
R6年1月に改定した景観計画を関係団体等へ継続的な周知活動に取組むとともに、熊本市の良好な景観を広く市民から募り、新たな視点場候補の掘り起こしと市民の景観意識向上に努める。

状況を示す写真や資料等

■熊本城周辺地域における景観形成基準の概要及び色彩基準

■景観形成基準の概要(熊本城周辺地域)

対象	景観形成基準の概要
建築物・工作物	位置・高さ ＜熊本城特別地区＞ ・海拔50mを超えないこと ＜一般地区＞ ・海拔55mを超えないこと  など
形態	・建築物等は、地域の雰囲気と損なわない、全体を統一感のある形態意匠となるように配慮すること。  など
色彩	・樹木との関係に配慮し、地域の雰囲気と損なわない「地域で推奨する色彩」を使用するように努めること。  など

■熊本城周辺地域で推奨する色彩

	色相	明度	彩度
明灰色	N	8以上9以下	-
中灰色	N	6以上8以下	-
暗灰色	N	3以上6以下	-
明褐色	R・YR・Y系 GY・G・BG・B・PB・P・RP系	8以上10以下	3以下 1以下
中褐色	R・YR系 GY・G・BG・B・PB・P・RP系	5以上8以下	3以下 1以下

■歴史的な街並み地区で推奨する色彩等

■歴史的なまち並み地区の地域で推奨する色彩

	色相	明度	彩度
白	N	9以上10以下	-
明灰色	N	8以上9以下	-
中灰色	N	6以上8以下	-
暗灰色	N	3以上6以下	-
黒	N	3以下	-

■歴史的なまち並み地区の地域で避けてほしい色彩

	色相	明度	彩度
明清色	R・YR系 Y系 GY・G・BG・B・PB・P・RP系	6以上10以下	3以上6以下 3以上4以下 2以下
暗清色	R・YR系 Y系 GY・G・BG・B・PB・P・RP系	6以下	3以上6以下 3以上4以下 2以下

熊本市・景観発掘プロジェクト

【目的】景観に対する市民の関心や意識を高め、地域に対する誇りと愛着を育むことで、景観の保全・向上を図るとともに、応募される良い景観を蓄積していくことで、次期景観計画改定において、新たな重点地域や視点場の候補として活用

■募集ポスター(第二弾)



■募集概要等

募集テーマ	①景観部門 ②屋外広告物部門	熊本市らしい わたしの推し景観 看板・広告とまちが調和した景観
募集期間	【第一弾】令和7年7月11日～令和7年9月30日 【第二弾】令和7年11月14日～令和8年1月30日	
表彰・展示等	入賞者に対して賞状と景品「熊本市特産品詰め合わせ」を送付 市HP・SNS等で発表し、公共施設等で展示を実施	

■入賞作品例(新町)



■応募数・入賞数

	第一弾		第二弾	
	応募	入賞	応募	入賞
①景観部門	198	10	166	10
②屋外広告物部門	36	3	30	3
計	234	13	196	13

■選定作品展示状況



評価軸③-1-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
歴史的風致形成建造物助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 歴史的風致形成建造物の指定制度を活用するとともに、指定建造物の保存、修景等に係る経費の一部を助成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・R2年10月に歴史的風致形成建造物の指定(30棟)とともに、指定建造物の保存・活用に対する助成制度を開始し、R7年度は1件(R2～7年度までの総計9件)の助成を行っており、現在も、改修に向けた相談を数件受けている。  
 ・引き続き、歴史的風致形成建造物の指定制度や助成制度を通じて、歴史的建造物の保存・活用に対する市民や所有者の意識醸成を図っている。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない  
 重点区域では、当該指定建造物30棟以外にも、歴史的価値を有する建造物が点在していることから、これらの建造物の追加指定に向けて検討を進める。

状況を示す写真や資料等

■歴史的風致形成建造物(重点区域 計30棟)



設置銘板

■歴史的風致形成建造物の保存・活用に対する支援(交付決定ベース)

年度	件数	助成額
令和2年度	2件	8,000千円
令和3年度	2件	3,215千円
令和4年度	0件	0千円
令和5年度	2件	1,181千円
令和6年度	2件	4,510千円
令和7年度	1件	715千円
合計	9件	17,621千円

■助成実績



塩胡椒(豪雨被害による内装改修)

評価軸③-1-2  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
熊本城復旧事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成28年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業／都市災害復旧事業(公共土木施設災害復旧事業)／防災・安全交付金(都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業)／重要文化財(建造物・美術工芸品)修理、防災、公開活用事業／歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業／重要文化財等防災施設整備事業

計画に記載している内容 熊本城の石垣、重要文化財建造物及び再建・復元建造物の崩落・倒壊防止対策を講じつつ、本格復旧に向けた調査・設計・復旧工事を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和7年度は宇土櫓五階櫓の解体保存工事や平櫓台石垣の復旧工事等が完了したほか、引き続き田子櫓ほか4棟の復旧工事等を実施するとともに、新たに飯田丸五階櫓の復旧工事等に着手した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	復旧が未完了の建造物や石垣を「熊本城復旧基本計画」に基づき計画的復旧を進めていくうえで、今後も国・県との連携を継続していくとともに、文化財保全のための専門委員会との議論を重ね、復旧工事及び調査研究に取り組んでいく。

状況を示す写真や資料等



宇土櫓五階櫓の解体保存工事



平櫓台石垣の復旧工事



田子櫓ほか4棟の復旧工

評価軸③-1-3  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
景観重要建造物・景観形成建造物助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成11年度～令和11年度
支援事業名	市単独事業/社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)
計画に記載している内容	景観法及び熊本市景観条例に基づき指定した景観重要建造物や景観形成建造物の保存、修景等に係る経費の一部を助成する。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	

令和7年度に助成対象となる事業はなかったが、引き続き、所有者等からの助成金に対する相談対応を行っている。  
※歴史的風致形成建造物に指定しており、助成を行ったものは歴史的風致形成建造物助成事業にて計上。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も所有者等からの助成金に対する相談対応を継続し、保存修景に向けた助成を継続していく。

状況を示す写真や資料等

■本市における対象建造物の数

景観重要建造物	景観形成建造物
5件	14件

■対象建造物の事例



景観重要建造物: 西村邸



景観形成建造物: PSオレンジ

評価軸③-1-4  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
町並み復旧保存支援事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

R3年度事業終了

事業期間	平成29年度～令和2年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	新町・古町地区、川尻地区において、平成28年(2016)熊本地震により被災した町屋などの伝統的様式建造物(昭和25年(1950)以前に伝統工法で建てられた木造の建造物)の復旧に要する費用を補助し、伝統的様式建造物の保存を図る。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	

・令和3年度までの実績:計33件、助成総額132,169千円(H29年度～R3年度)  
 ・熊本地震により被災した町屋などの伝統的様式建造物に対し、復旧保存支援を行い、建造物の保存とともに良好な町並みの形成が図られた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	地震から一定の期間が経過したことに伴い、本事業については終了したが、町並みづくり助成事業をはじめとするその他事業により、今後も所有者等からの助成金に対する相談対応を継続していく。

状況を示す写真や資料等

復旧前

復旧後



町屋(万町2丁目) 復旧保存改修工事



町屋(細工町) 復旧保存改修工事

評価軸③-1-5  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度
町屋等活用促進事業		現在の状況 □実施済 ■実施中 □未着手

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業/熊本県新型コロナウイルス感染症対応総合交付金/社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容  
重点区域である城下町地区、川尻地区に残る町屋等を後世に引き継いでいくため、以下の取組み等を検討していく。  
・町屋等の歴史的建築物を保存・活用していくために、建築基準法の適用を除外する条例を制定するとともに、所有者等に対し、当該条例を活用するための計画書策定に係る費用の一部を助成する。  
・町屋の利活用のために、地区の不動産業者等と連携し、町屋の貸し手と借り手のマッチングを図る。その際、町屋への居住希望者を対象とした、町屋の見学ツアーや地域住民との交流の場を設けるなど、必要に応じた支援を検討する。  
・町並みづくりガイドラインの普及啓発等を行い、町屋等の修景促進を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【建築基準法適用除外条例の活用】  
・条例活用第1号として、早川倉庫(本宅)を対象に、新たなコミュニティやビジネス、イノベーション等を生み出し、多様なヒト・モノ・コトが集まる宿泊、飲食、物販、イベントホール等の複合施設に用途変更するための保存活用計画を公民連携で取りまとめ、R6年6月に建築基準法の適用除外の指定を行った。R8年2月に改修工事完了。

【町屋利活用モデル事業】  
・歴史的建造物を活かした地域活性化や観光振興に資する、優れた保存・活用事業を行う町屋をモデル町屋として選定し、本市が予算の範囲内において、その事業実現に必要な経費の一部を補助する「町屋利活用モデル事業」を行っている。  
・R7年度は2件申し込みがあり、1件モデル町屋に選定。(うち1件は取り下げ)  
・モデル町屋に選定された建物は、明治25年に建築された蔵で、薪火を使った飲食店として活用。地元野菜、地元作家作品の使用を計画しており、R8.3月改修工事完了。

【町屋等利活用マッチング支援事業等の実施】  
・R3年度に実施した町屋等調査事業(DB化事業)による調査結果を基に、R4年度から歴まち支援法人等と行政が連携した「町屋等利活用マッチング支援事業」を行っている。利活用に向けた動機付けのため、町屋等利活用実証実験等の各事業に取り組んでいる。R7年度は城下町地区及び川尻地区で3件実施した。

○川尻地区  
R7年度も引き続き、明治期に創業し現在休業中の銭湯「富乃湯」にて実証実験を開催(R7年11月15日、16日)。アートを軸として、ワークショップなど市民参加型の利活用イベントを開催した。地域の支援法人とも連携し、「川尻蔵前通り祭」「JRウォーキング」と同時開催することで、約800名の来場者があった。また、川尻地区の回遊を促すために、名所を巡るスタンプラリーを実施。今後は所有者等への継続的なヒアリングを行い、利活用の可能性がある町屋の掘り起こしが必要である。

○古町地区  
町屋「旧秤屋」について、建物を活用したいと要望がある。今の建物の維持管理を行いつつ不動産管理会社の事務所として利用予定。五福校区の町屋について現況調査を実施し、早川倉庫の改修工事に伴う店舗の誘致支援(テナントリーシング業務)を行った。

○新町地区  
国の登録有形文化財であり、R6年6月に書店が休業した「長崎次郎一階」部分で、歴まち支援法人である一新まちづくりの会が主催する「妖怪幽霊祭り」(R7年7月24日)の支援を行った。新町に古くから伝わる妖怪画の展示や語り手による怪談話を行った。また、新町地区の回遊を促すために、名所を巡るスタンプラリーを実施。本イベントを参考として、今後の利活用用途について所有者を含め検討を行っている。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

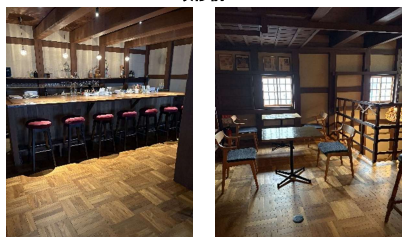
■計画どおり進捗している  
□計画どおり進捗していない  
地元まちづくり団体(歴まち支援法人)と連携し、所有者等との信頼関係の構築により、「町屋等利活用マッチング支援事業」を協働で実施していき、「町屋利活用モデル事業」を併用しながら空家部分の利活用につなげていく。

状況を示す写真や資料等

■町屋利活用モデル事業



改修前



改修後

■町屋等利活用マッチング支援事業



【川尻地区】現在休業中の銭湯「富



【新町地区】登録有形文化財・歴史的風致形成建造物の「長崎次郎一階」を活用した実証実験



【古町地区】

R6にマッチング支援を実施した「旧秤屋」は新規利用の成立。

評価軸③-2-1  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
町並みづくり助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成24年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業/社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 重点区域である城下町地区(新町・古町)、川尻地区において、町屋などの伝統的様式建造物や、一般建造物の保存・修景等に係る経費の一部を助成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・令和7年度に1件の建造物に対し助成を行い、良好な町並みの景観形成を推進するとともに地域の住環境の向上が図られた。  
 ・これまでの実績は、城下町地区(H24年度～R7年度)が計39件、川尻地区(H27年度～R7年度)が計14件。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	保存・修景を行う建造物の歴史的価値を残していくために、適宜専門家と所有者・事業者を交えた協議の場を設けていく。

状況を示す写真や資料等

■R7年度の実績

修景前



修景後



町屋(唐人町)外観改修工事

■これまでの交付実績(交付決定ベース)

年度	新町・古町地区		川尻地区	
	件数	助成額	件数	助成額
平成24年度	10件	14,620千円	-	-
平成25年度	5件	5,033千円	-	-
平成26年度	8件	10,923千円	-	-
平成27年度	3件	5,304千円	1件	3,000千円
平成28年度	4件	7,177千円	1件	1,500千円
平成29年度	0件	0千円	2件	3,461千円
平成30年度	2件	1,371千円	2件	1,941千円
令和元年度	0件	0千円	0件	0千円
令和2年度	1件	1,488千円	3件	2,911千円
令和3年度	1件	1,500千円	2件	2,613千円
令和4年度	1件	3,000千円	1件	1,500千円
令和5年度	2件	3,411千円	0件	0千円
令和6年度	0件	0千円	2件	3,040千円
令和7年度	2件	1,976千円	0件	0千円
合計	39件	55,803千円	14件	19,966千円

評価軸③-2-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
道路空間整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成27年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業/社会資本整備総合交付金(まちなかウォークアブル推進事業)

計画に記載している内容 地域住民との協議や現地調査等を実施し、歴史的な建造物が建ち並ぶ通りや祭礼等のルートなどのうち、特に歴史的な町並み景観の向上が必要となる通りを選定し、その町並み景観の向上を図るための道路美装化等の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【唐人町通りの道路美装化に向けた設計業務・工事】

・城下町地区の中心に位置し、歴史的建築物が集積する「明八橋～唐人町通り」を対象に、R3年度からワークショップ等を重ね、地元の見解を元に賑わいや回遊・滞留につなげる道路デザインを検討してきた。  
 ・R6年度は明八橋につながる市道部分の工事完了し、明八橋のライトアップやお花見と合わせ道路空間を活用したイベントを開催。道路空間に賑わいをもたらす新たな活用方法を検討した。  
 ・R7年度は、唐人町通り(西唐人町～中唐人町)の官民境界立会を実施し、西唐人町部分(1工区)の工事に着手した。1工区車道部分はR7年度2月に完成し、街灯を含む歩道部分の工事を実施中(R8年7月完成予定)

【沿道や周辺の民有地を含めたみちづくりの取組】

・公共空間(道路空間)だけでなく、沿道や周辺の民有地を含めたみちづくりの取組として、沿道及び周辺民有地の一体的な景観形成や地域資源の活用を継続的に運用・管理してもらうため、R6年度に地域と連携して「景観まちづくりルール(案)」を策定。本ルールは法的拘束力を持たない紳士協定であることから、地域住民が内容を理解し、共通の認識を持つことが重要である。策定後も引き続き意見聴取の場を設け、沿道景観のあり方や地域資源の活用などに関する意見交換を行った。これらの対話により出た新たな意見をルール(案)に追記し官民連携で管理していく。  
 ・また、沿道の機運醸成や公民連携による賑わい・憩いの空間を作るため、R5年10月から沿道緑化実験を開始し、樹木8本、ベンチ5基を設置。令和7年度は樹木5本、ベンチ5基を継続して設置。樹木数の変化について、場所によって水やりなど維持管理上の負担の面での課題が見えてきたため、期間限定で花苗を設置する実験を行った。

3

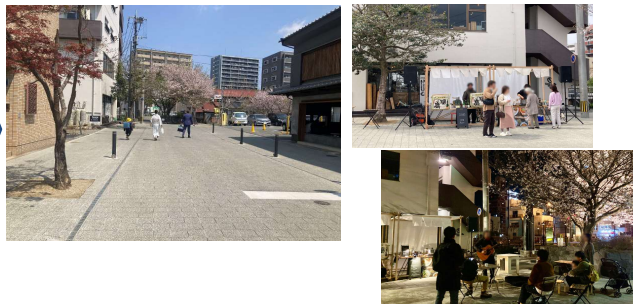
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

令和6年度は市道部分が完成。令和7年度は西唐人町区間に着工し、地下埋設物事業者との工程管理の調整を行い、地域住民に対して丁寧な説明を心がけ進めていく。また、まちづくりルールに関しては地域主体の雰囲気を作っていくことが課題であるため、定期的に地域と対話を重ねアップデートしていくことで機運醸成を図っていく。

状況を示す写真や資料等

■唐人町通りの道路美装化に向けた設計業務



道路空間活用事例(R7年3月)

■地域との意見交換(R8年1月)



■期間限定で花苗設置(R7年5月)



唐人町通り沿道緑化実験 (R5年10月～継続中)

行政(公共地) 連携 地域・民間事業者(民有地)



景観まちづくりルール策定支援(R6年1月～)

■維持管理協力のもと  
 樹木とベンチを継続して設置

評価軸③-2-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
空地等活用事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度	
支援事業名	社会資本整備総合交付金(まちなかウォーカーブル推進事業)(街なみ環境整備事業)	
計画に記載している内容	城下町地区や川尻地区の重点区域内に発生した空地について、良好な町並みの創出や、地域の歴史まちづくり活動の活性化に寄与するための利活用方法を地域住民等と協同で検討し、利活用を図る	

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【城下町地区】

・R4年度から、一町一寺が残る城下町地区(古町地区)において、当地の路地や寺社・町屋跡にある駐車場等を活用する実証実験を、熊本市、一般社団法人KIMOIRIDON(歴まち支援法人)、熊本大学田中智之研究室、独立行政法人都市再生機構九州支社の4社共同で実施している。

・R7年10月の実証実験では、子どもの遊び場に加え来場者が長く滞在しなくなる空間演出を検討し様々な形式のベンチや植栽をエリア内に設置し、くつろげる環境条件を作り人流の動向調査を行った。同時平行して、不動院跡地の墳墓地部分所有者特定を法務局に調査依頼中(2か年を想定)。将来的な活用を見据え段階的な道路の付け替え案など可能性検討を行った。空き家の所有者へ空き家対策課を通じてコンタクトを図り状況をヒアリングした。

あ	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	実証実験を重ねることで、不動院跡地(一町一寺)内での活動が地域に認知されつつあり、新たなプレイヤーの発掘にもつながった。課題として、将来的に常用可能な空間を検討するため、所有者不明土地の整理が必要である。

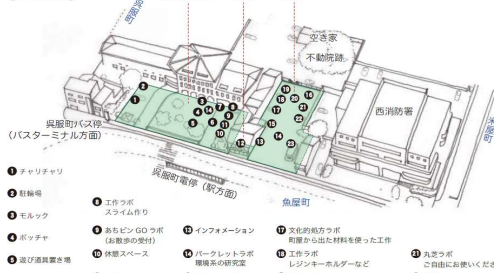
状況を示す写真や資料等

●城下町地区の取組(くまもと古町地区実証実験<五感散歩2025秋>ロジラボ R7.10.18)

会場レイアウト



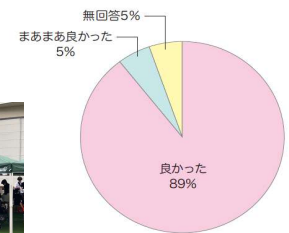
【会場案内】



アンケート結果

7. この社会実験に参加してどうでしたか

①良かった	89%	322.1
②まあまあ良かった	5%	18.9
③どちらでもない	0%	0
④あまり良くなかった	0%	0
⑤良くなかった	0%	0
無回答	5%	18.9



開催前準備(キックオフ打合せ)



開催時の様子



今後の展望

- 点(場)の展開  
取り組みが行われる点(場)を増やしていくことが望まれます。複数の場が連鎖して面的な界隈性を生み出すことで、古町地区のアイデンティティに繋がっていきます。
- 日常化への動き  
2023年の第3回開催で検証した「軽い運営」を活かし、定期開催や開催回数の拡大に向けて試行することが望まれます。
- 設えの良質化  
設えを整える上で「仮設」という難しさがありますが、さらに工夫して良質な環境を提供することが望まれます。

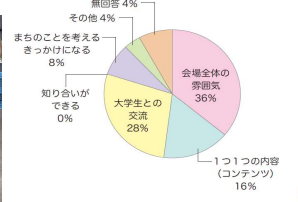
サイン看板



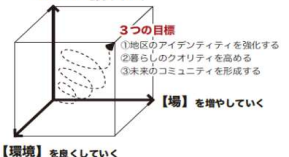
緑化実験



6. この社会実験で良いと思うところはありますか



【頻度】を高めていく



評価軸③-3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
文化団体への助成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成18年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 本市に残る神楽・獅子舞など歴史ある貴重な伝統芸能等の保護育成に係る費用の助成を、必要に応じて有識者の指導・助言を得ながら実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

無形文化財や無形民俗文化財の担い手育成促進のため、令和7年度には神楽や獅子舞等の保存継承活動を行う15団体へ活動費助成を行った。(1団体50千円上限)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	伝統芸能等の継承のため、若い世代を対象としてSNSで情報発信をするとともに学校への伝統芸能等講師派遣を行った。また、令和6年度から団体からの希望にあわせて民間の助成や各種補助事業を紹介する支援を充実させ、団体の助成金獲得に繋がった。

状況を示す写真や資料等

■伝統芸能等の保存継承団体を行う15団体への活動費助成



六殿宮流鏝馬



木原神楽

評価軸③-3-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度
		現在の状況	
伝統技術普及継承事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成25年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 祭礼用の獅子頭の制作等にも用いられる伝統技術の継承や伝統工芸品産業の振興のため、必要に応じて有識者の指導・助言を得ながら後継者育成やPR、伝統工芸出張講座をくまもと工芸会館と連携を図りながら実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・年間工芸教室による伝統工芸品の制作などを通して、後継者育成に取り組んだ。  
令和7年度年間工芸教室受講者数 肥後象がん7名、陶芸2名、竹工芸8名、七宝1名、木工芸4名
- ・通常の年間工芸教室とは一線を画した、より高度な技術習得を目指す講座を後継者育成事業として行った。  
令和7年度受講者数 熊本友禅2名、押絵2名
- ・伝統工芸出張講座、ワークショップを開催し、工芸品作り体験を通して市民が工芸品に触れる機会を創出した。  
令和7年度受講者数 肥後象がん91名、肥後てまり6名、革工芸5名、肥後まり62名、七宝3名
- ・毎年パリで開催される工芸展に熊本の工芸品を出展・販売した。
- ・商品開発インターンシップ事業を実施し、新商品の開発と販売支援を行った。  
令和7年度 インターンシップ受入先:大住裕司氏(肥後象がん) インターンシップ参加人数:6名
- ・工芸イベントを熊本市現代美術館で開催し、工芸品を「さわる・つかう」イベントを通して工芸品の魅力を発信した。  
熊本酵母のお酒と和食を、伝統工芸の器で提供…2日間で約300名が来場

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も継続してSNS等での伝統工芸の効果的な魅力発信を行うとともに、工芸家が工芸品を展示・販売できる新たな場の提供や伝統工芸の継承につながる取り組みを検討していく。

状況を示す写真や資料等



▲パリとナントで開催された企画展 第13回「『伝統と先端と』～日本の地方の底力～」会場の様子  
(一般社団法人 自治体国際化協会 パリ事務所のホームページより)



▲商品開発インターンシップ



▲工芸イベント



評価軸③-3-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
地域コミュニティづくり支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 地区住民が主体的かつ継続的に行う歴史文化の保全継承や防災などに対する課題の解決のための活動等に支援を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

＜城下町地区＞

・一新小学校と五福小学校は創立150周年を迎え、地域の歴史文化をまとめた150周年記念誌をそれぞれ制作、配布された。  
 ・五福校区では、校区最大のイベントである「風流街浪漫フェスタ」が通算31回目の開催を迎えた。地域と小学校が協力し、地域の文化に触れる機会となった。

＜川尻地区＞

・川尻地区では、酒造「瑞鷹」のある通りを中心としたイベント「蔵前通り祭り」が春と秋の2回開催された。

＜託麻地区＞

・託麻地区は「くまもと花博2026」のまち山エリアに選定され、託麻北校区と共同し、歴史的風致の一つである八十八ヶ所めぐりのフィールドを舞台に、「ライトスケープキャラバンin託麻(神園)」を実施した。昼間は照明づくりのワークショップ、夜は13か所の札所をライトアップし、スタンプラリーを実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も地域団体と連携し、地域課題解決に向けた新たなまちづくり事業への支援を継続していく。
--	--

状況を示す写真や資料等



150周年記念誌



【五福校区】：風流街浪漫フェスタ



【川尻校区】川尻蔵前通り祭り(秋)



【託麻地区】ライトスケープキャラバンin託麻(神園)



評価軸③-3-4 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
くまもと工芸会館管理運営事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成17年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 伝統工芸品づくりの実演や体験を通して、川尻地区および市内の伝統工芸品の振興を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・伝統工芸品の実演の見学や制作を体験できる教室などを日替わりで実施し、多くの方に伝統工芸品に触れることができる機会を提供した。
- ・県内外からの小中学校、高校の見学旅行や修学旅行等での体験学習として工芸体験を実施し、若者が工芸品に触れる機会の提供を行った。
- ・市民が伝統工芸品を身近に感じることができるよう、川尻地区や九州内の作品の常設展示や随時、企画展を行った。
- ・Youtubeチャンネルにて工芸実演・体験や企画展などくまもと工芸会館で行っている取り組みのPRを行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も地域住民や団体と連携し、実演・体験や企画展、地域と連携して実施している「かわしり春ものがたり」やYouTubeチャンネルなどを通して、市内の伝統工芸品の振興、また川尻地区の地域振興に寄与することを目指す。

状況を示す写真や資料等



熊本市くまもと工芸会館Youtube公式チャンネル



かわしり春ものがたり チラシ

評価軸③-4-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
坪井川舟運検討	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

R5年度事業検討終了

事業期間 令和元年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 城下町地区を横断する坪井川について、外国人などの観光客に対しての体験型の観光ツールとして、舟運に向けた調査・検討を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和5年度検討終了。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	調査及び検討の結果、工事費や工事期間等を理由として、舟運の実現は難しいと判断された。

状況を示す写真や資料等

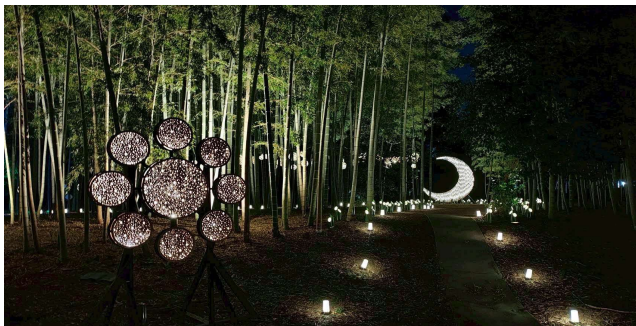


評価軸③-4-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度
			現在の状況
歴史・文化を活かした観光体験事業			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	地区住民が主体となって、来街者を対象とした地域の社寺等の観光資源を活用した観光ツアーを実施するなど、多様な体験型プログラムの作成・実施を行う。 また、ボランティアガイドの育成や将来に渡って継続的な活動を行っていくためのスキームの検討等を行う。 さらに、ARやVR等の最新技術を活かした新たなコンテンツの活用について検討する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
水前寺成趣園にて竹あかりと幻想的な庭園を演出した夜間イベント(LuxNightKumamoto)の開催や水前寺肥後細川文化の発信拠点である湧水亭における新たな体験型プログラムとして、細川流盆石体験を実施している。また、ボランティアガイドの育成や熊本市の歴史と文化に深い知識を持つ「熊本市地域通訳案内士」の育成研修やフォローアップ研修等を実施しており、熊本市地域通訳案内士登録者数は、全体で45名(英語33名・中国語12名)となっている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	より深い知識の習得のため、計画的に「熊本市地域通訳案内士」の育成研修、フォローアップ研修を行い、人材確保とスキルアップに取り組んでいく		

状況を示す写真や資料等



▲夜間イベント(Lux(ルクス)NightKumamoto)



▲細川流盆石体験



▲フォローアップ研修(座学研修)



▲フォローアップ研修(実地研修)

評価軸③-4-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
観光周遊促進事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	来街者の回遊性を高めるため、地区内の周遊を促すルートの検討や、無料Wi-Fiの整備、老朽化した観光案内サイン等の多言語化を含めた更新等を行う。また、周遊ルートにおける自転車用サイン整備や観光レンタルサイクルの導入等を検討する。 公共用地だけでなく、民有地も活用した周遊や観光案内の手法を検討し、観光周遊を促進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			

【観光案内サイン等の更新】

・観光案内サインについては、設置から相当の年数が経過しているものも多く、多言語化なども含めた改修にあたり、当該サインの調査点検および整備計画の検討を行っている。

【重点区域の散策マップの英語化】

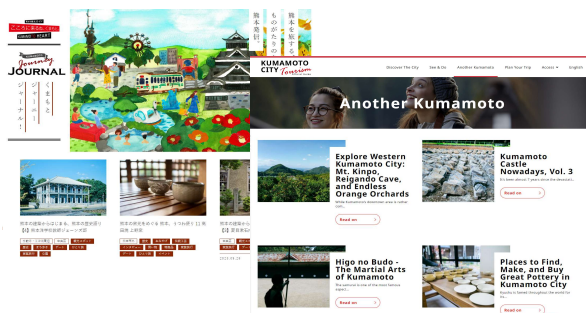
R6年度に作成した英語版の散策マップ「城下町散策町図」「川尻散策町図」を、観光案内所やホテル等で配布した。(配布実績:約2,000冊)

【重点区域でのスタンプラリーの取組】

・新町地区では、R7年7月24日の町屋活用実証実験の際に、歴史的なスポットを巡るスタンプラリーを実施。各スポットオリジナルのスタンプやポストカードとして使える台紙を使用した。約200名の参加があった。  
 ・川尻地区では、R7年10月26日-27日の町屋活用実証実験の際に、歴まちデジタルマップを活用したスタンプラリーを実施。また、JR九州と連携し、同日JR九州ウォークラリーを川尻地区一帯で開催した。JR九州ウォークラリーでは約400名の参加があり、スタンプラリーは約200名の参加があった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	観光案内サインについては、今後改修方針を策定し、更なる観光客の利便性・回遊性を向上に繋げていく。また、熊本城から市内各所への面的回遊を促すために、各種イベント等の開催を検討していく。

状況を示す写真や資料等



▲観光ウェブサイト コラムページ(日本語、多言語)



▲重点区域における回遊促進の取組



▲重点区域における回遊促進の取組

評価軸③-4-4  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バスの運行			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	平成18年度～令和11年度		
支援事業名	熊本城周遊バス運行事業費補助金(公益社団法人 熊本県観光連盟)/中心市街地活性化ソフト事業(特別交付税)		
計画に記載している内容	観光客がバスで気軽に中心市街地を回遊することを目的として、熊本駅を発着とした熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バスの運行を実施し、観光客の交通上の利便性を高め、市内観光拠点への円滑な移動を促す。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・令和2年11月以降EVバスを4便/日運行中。 ・令和7年10月より、1回の利用につき大人200円、小児100円へ運賃を改定。 ・令和6年度の利用者は約10万人で、コロナ禍前の令和元年度と比較すると1万人以上増加している。近年、熊本市を訪れる観光客が増加傾向にあることから、熊本城周遊バスの利用者数についても、今後も増加が見込まれる。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	令和6年10月に、熊本県内の路線バス(熊本城周遊バスを含む)において全国交通系ICカードの利用ができなくなり、代替としてクレジットカード等のタッチ決済が導入された。利用者の利便性を損なわないよう、決済手段の周知広報に取り組んでいく。		

状況を示す写真や資料等

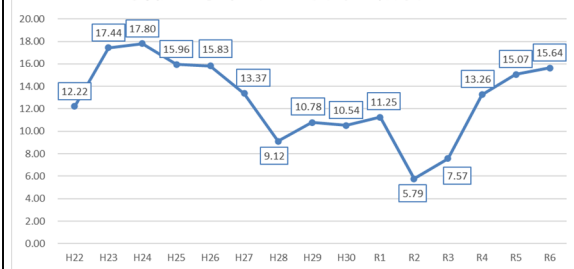
事業概要

1. 運行会社 熊本都市バス株式会社(H23.10.1～)
2. 運行便数 平日 : 1日16便(概ね30分間隔) ※12時台は60分間隔  
土日祝: 1日22便(概ね20分間隔) ※12時台～14時台はまでは30分間隔)
3. 所要時間 65分
4. 運賃 1回の利用 大人:200円 小人:100円  
1日乗車券 大人:500円 小人:250円
5. 運行系統  
熊本駅前⇒祇園橋⇒明八橋⇒新町⇒蔚山町⇒藤崎台下⇒熊本桜町バスターミナル⇒桜の馬場 城彩苑⇒熊本城・二の丸駐車場⇒こども文化会館前⇒博物館・旧細川刑部邸前⇒KKRホテル熊本前⇒県立美術館分館横⇒熊本ホテルキャッスル前⇒市役所前⇒桜の馬場 城彩苑⇒熊本桜町バスターミナル⇒商工会議所前⇒ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ⇒熊本駅前

ルートマップ



年度別の1便あたりの平均乗車人数(単位:人)



評価軸③-4-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
川尻米蔵利活用事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成23年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業/国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金/熊本県文化財保存整備費補助金(文化財保存事業)

計画に記載している内容 史跡熊本藩川尻米蔵跡を中心に、地区の散策拠点としての駐車場及び便益施設(トイレ等)の整備を実施するとともに、地区住民と行政が連携した保存活用を進めるために、ワークショップ等を開催して保存活用方を検討し、それに基づいた施策を推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

記念館の魅力向上のため、R7年8月9日～8月17日に地域の精霊流しに合わせてライトアップを実施した。また記念館の自主事業として、「上田休と西南戦争：川尻鎮撫隊・細川家・地域社会」をR7年11月15日に開催し38名の参加があった。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

米蔵と川尻のまち双方の魅力向上の相乗効果が得られるよう、活用や運営について地域や関係機関との連携を強化・継続していく。

状況を示す写真や資料等



精霊流しの時期に合わせて米蔵をライトアップ

【8月9日～8月17日 魅力向上ライトアップ】



「上田休と西南戦争：川尻鎮撫隊・細川家・地域社会」

【11月15日 記念館自主事業】

評価軸③-5-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
「復興城主」募集事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成28年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 熊本城への復旧支援として1万円以上を寄付した方を「復興城主」として認定し、城主証等を交付する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

城主として熊本城の復興を応援したいという市民等からの声により、平成28年11月から開始した「復興城主」制度は、令和7年12月までに約42.5億円(約23.8万件)の寄附が寄せられ、復興に向けて創設した制度が定着してきている。また、特典のない熊本城災害復旧支援金も、平成28年4月からの制度開始から、令和7年12月までに約27.9億円(約2.58万件)の支援が寄せられており、寄附制度を通じて熊本城への愛着が高まってきている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	制度は定着しているものの、寄附金額は年々減少傾向にあることから、さらなる広報活動に取り組む必要がある。令和7年度は、継続寄附者及び新規寄附者の増加につながるような制度の周知に引き続き取り組んでいきたい。

状況を示す写真や資料等



城主証



デジタル芳名板

評価軸③-5-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
歴史文化体験学習事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成25年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 市内の小学生を対象として、歴史的風致を含む歴史文化関連施設を巡るバスツアーなどを実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

小泉八雲熊本旧居にて、子ども向けイベントとして、館内の説明板を読みながら謎解きを行う「ヘルンさんからの挑戦状」を実施した。普段、旧居を訪れる機会の少ない若年層も、謎解きを通じて、八雲の世界に触れてもらうことができた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	連続テレビ小説「ばけげん」の効果もあり、多くの来館があった。今年度の盛り上がりが一過性にならないよう、記念館の魅力を発信していきたい。

状況を示す写真や資料等



イベントポスター



問題用紙



イベントの様子

評価軸③-5-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
歴史まちづくり教育事業			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	既存の歴史に関する教材等を活用するとともに、必要に応じて歴史的風致を伝える冊子やビデオ等を作成し、小中学校等の子供たちに向けた、歴史的風致に関する授業やワークショップなどの教育活動を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
<p>【景観教育(歴史まちづくり教育事業)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの頃から身近なまちや良好な「景観」に対する関心を持ち、景観や歴史まちづくりに対する意識を高めることを目的に、市内の小中学生を対象に、R3年度から景観教育を行っている。</li> <li>・R7年度は、歴史まちづくり計画重点区域内の五福小学校(2年生、5年生、6年生)において、景観教育動画を活用した景観教育、歴史まちづくり教育を実施し、学校が取り組む「五福の町に恩返し」プロジェクトに対しての継続的な支援を行った。</li> <li>・地域と連携した事業を通じて、県立大学、ルーテル大学からの依頼を受け、歴史まちづくり事業について講義を行った。</li> </ul> <p>【熊本市歴史講座・出前講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本市歴史講座は、小学生とその保護者対象の歴史体験講座1回と、歴史ウォーク1回、講演会2回の計4回を実施した。また、ナイストライ事業で中学生を2校受け入れ、地域の歴史や文化を学んでもらった。</li> </ul>			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	景観教育については、新たな小学校での実施が出来なかったため、教育センター等と連携して実施校を増やしていく。		
状況を示す写真や資料等			

【R6年度景観教育】

知る・学ぶ

〈景観授業・歴史まちづくりに関する授業〉



本市職員による小学校出前授業 (R7.9)



本市職員による大学出前授業 (R7.12)

【熊本市歴史講座】



歴史体験講座 (運台寺文化財資料室)

【ナイストライ受入】



ナイストライ (出水中学校2年生)

評価軸③-5-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
情報発信推進事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史的風致に対する市民などへの認知度を向上させ、歴史まちづくりへの積極的な参画を促し、後世に引き継いでいくため、熊本城(城彩苑)や熊本博物館などの公共施設を情報発信の拠点とし、各地区の特徴を活かしたSNS・チラシ・マップ作成等による情報発信手法の検討・推進を行う。		

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【くまもと歴史写真部の取組】

若年層に歴史的な文化資源にふれてもらい、故郷への誇りと愛着を醸成することを目的として、令和7年度は、Instagram「くまもと歴史写真部(くま歴写真部)」に投稿した写真を活用したパネル展を開催し、より幅広い世代を対象とする認知度上昇を図った。

＜パネル展実績＞

熊本市役所1階(1月)、文京区(11月文京区アカデミア講座、肥後細川庭園)、新宿区(11月シンポジウム)、五高記念館(3月～5月予定)

【熊本市観光ガイド(WEBSITE)、くまもとシティガイド(Instagram)の運用】

・熊本への観光促進と周遊へ繋げるため、WEBSITE及びSNS等による積極的な情報発信を行った。本市の観光情報を発信するInstagram「くまもとシティガイド」において、R6年8月から市民や観光客等がタグ付けして投稿したものを引用する、いわゆるUGC投稿により、ファンが自主的に熊本のPRを行うことができるSNSプラットフォームとして情報発信を行っている。

フォロワー数は、R6年3月末時点で3,601人、R6年12月末時点で7,533人、R7年12月末時点で14,098人と6,565人の増加となっている。

【伝統的工法の現場見学会の実施】

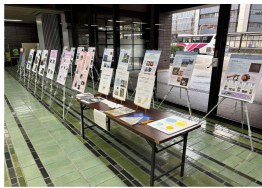
古町の早川倉庫の改修工事で竹小舞工法(間渡し竹と割竹を藁縄で編み込んで壁の軸を作る)と荒壁土塗り工法(わらを混ぜた土を竹小舞に塗り付けて壁の強度を上げる)の現場見学会を熊本市建築職員の技術研修として実施し、実施内容をSNSで発信した。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している  
□計画どおり進捗していない

・「くまもと歴史写真部」は若年層をターゲットとして始めた事業であるが、24歳以下のフォロワーは4%に留まっており、最も割合が高いのが45～54歳の27%であった。来年度は漱石来熊130年記念年のため、夏目漱石をテーマに発信し、若年層への訴求力が高い投稿について今後学生と意見交換などを行いながら検討していく。  
・継続して魅力あるWEBSITEおよびSNS等の運用を行いながら、効果的な情報発信に繋がるよう新規フォロワーの獲得に向けたPRを行っていく。

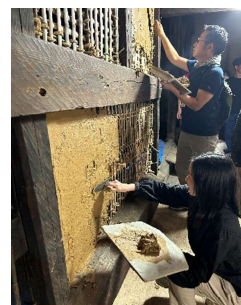
状況を示す写真や資料等



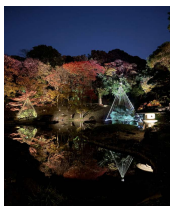
パネル展(熊本市役所1階ロビー)の様子



パネル展(五高記念館)のチラシ



伝統的工法の現場見学会の実施



肥後細川庭園「ひごあかり」でのPRの様子



くまもとシティガイド【公式】  
(熊本市観光政策課Instagram)

評価軸③-5-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
歴史まちづくり調査研究事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 歴史まちづくりに関する継続的な調査・研究等を行い、歴史まちづくりを推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

8つの歴史的風致に関する文化資源の保存活用団体より「熊本市郷土文化財制度」への申請を受け付けた場合は調査を行い、認定した場合は郷土の宝として顕彰することで、後世への継承促進や、まちづくりへ活用していく。本年度は、郷土文化財第6号として「六殿宮流鏝馬」、第7号として「白梅天満宮風神大根」を認定し、紹介HPの作成やSNSでの発信等、周知促進を図っている。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

文化財に関する法や条例よりも幅広い範囲をカバーする制度であり、文化資源の保存・継承・啓発活動を団体で行っていることが申請の前提条件である。他にも条件があるため、申請を検討している団体へのフォローを適宜行っていく。

状況を示す写真や資料等



「六殿宮流鏝馬」の郷土文化財認定  
 (上)実施の様子  
 (下)認定書授与式の記念撮影

「白梅天満宮風神大根」の郷土文化財認定  
 (上)実施の様子  
 (下)認定書授与式の記念撮影

評価軸③-5-6  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
「文化財保存活用地域計画」の策定検討	<input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和5年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 本市の文化財の保存および活用に関する総合的な計画である「文化財保存活用地域計画」策定のために必要な調査等を実施し、計画策定について検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

文化庁が実施する研修に参加し、策定にあたって必要な調査等についての情報収集を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

県が策定した「熊本県文化財保存活用大綱」を勘案して、市の地域計画を策定することが必要となるため、今後大綱の内容の精査・研究を進めていく。また、現在個別の文化財の保存活用計画を策定しており、計画策定後のR9年度以降に実施予定。

状況を示す写真や資料等



評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度
		現在の状況
文化財の保存・活用の推進		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 未登録・未指定の有形文化財の修理への支援策や、所有者や周辺住民等と協働による維持管理や活用について検討する。また、歴史的風致形成建造物や国の登録有形文化財、市指定文化財等への指定を検討する。併せて、無形民俗文化財等の担い手育成を視野に入れた活動団体への支援を継続する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

記念館の魅力向上のため、自主事業イベントの他、ジェーンズ邸の魅力向上のため、9月にハワイアンイベント、12月にクリスマスイベントを実施。ジェーンズ邸前でのステージイベントや、ライトアップなどを実施し、多くの来園があり、入館者増に寄与した。  
 指定文化財については、史跡西南戦争遺跡の保存活用計画の策定に取り組むほか、出水神社が作成する名勝及び史跡水前寺成趣園の保存活用計画の策定を支援している。  
 また、未指定の被災文化財については引き続き熊本県被災文化財復旧復興基金を用いての修理の支援を実施し、所有者の負担の大きいものについては民間財団等の助成金を紹介した。  
 さらに、無形文化財や無形民俗文化財の担い手育成促進のため、保存継承活動を行う11団体へ活動費助成を行っている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	再開した記念館や文化財を知ってもらうため、興味・関心をもってもらう、より効果的な広報や周知方法を検討していくとともに、未指定文化財の指定については、各分野ごとのリスト作成に努め、指定候補の整理を順次進めていく。

状況を示す写真や資料等



ジェーンズの教え子で、ハワイ大学に招聘された原田助に因んで開催したハワイアンイベント  
(県指定重要文化財)



ジェーンズ邸クリスマスイベント  
(県指定重要文化財)

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度
文化財の防災		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容  
文化財放火デー等の期間に、各関係機関及び消防組織と協力して、訓練を実施する。また、消防組織による文化財の予防的な査察と啓発を実施するとともに、所有者・管理者と消防組織と行政の三者による協力体制を構築する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

所管施設の現地での訓練を7施設(熊本藩川尻米蔵、徳富記念園、夏目漱石内坪井旧居、御馬下の角小屋、横井小楠記念館、小泉八雲熊本旧居、熊本洋学校教師ジェーンズ邸)で実施したほか、啓発ポスター及び『国宝・重要文化財(建造物)の防火対策ガイドライン』を文化財所有者及び管理者に送付し、周知に努めた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	文化財防災の重要性をさらに周知すべく、関係機関との連携のうえ啓発ポスターの掲示等、引き続き普及啓発に努めるとともに、常に防災意識を持つよう、所管施設の防災体制を改めて確認する。

状況を示す写真や資料等

【文化財防火週間の消防訓練】



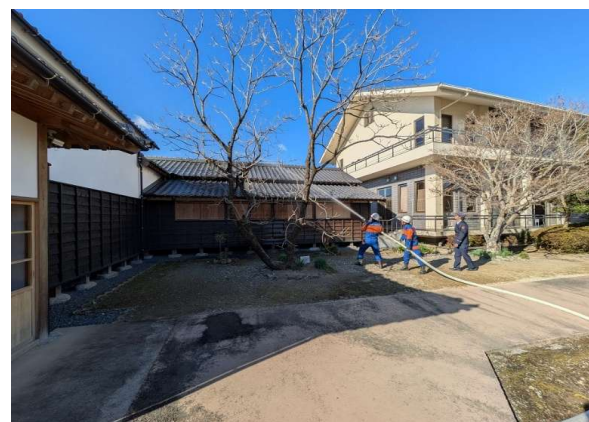
消火器による初期消火訓練(熊本藩川尻米蔵)



消防局による放水訓練(熊本藩川尻米蔵)



消防局・消防団による連携訓練(横井小楠記念館)



消防団による放水訓練(横井小楠記念館)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度
文化財の保存・活用の普及・啓発		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容  
文化財のパンフレット作成や市ホームページの充実化を図る。文化財や歴史的風致を活用した企画展示や各種講座、イベント等の開催継続や、小中学校における歴史的風致教育等を実施する。また、普及・啓発の担い手でもあるボランティアガイドについても引き続き養成していく。無形民俗文化財の担い手の育成や技術の伝承のため、過去から現在までの記録作成等に取り組む。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・熊本市歴史講座は、小学生とその保護者対象の歴史体験講座のほか、一般向けの講演会の計4回を実施した。また、西南戦争歴史講座は、R7年2月末時点で6回実施し、451名の参加者があった。
- ・熊本博物館にて熊本市遺跡発掘速報展2024を開催した(令和7年1月11日～令和7年3月9日)。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	引き続き事業実施の広報に努め、事業継続する。

状況を示す写真や資料等



小学生向け体験発掘会



西南戦争歴史講座(植木文化センター)



歴史講座(運台寺資料室にて開催)



熊本市遺跡発掘速報展(ギャラリートーク)

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度
埋蔵文化財の取り扱い		現在の状況  <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 開発等に際して、地権者への周知を図るとともに、十分な事前協議を行い、できるかぎり現状保存を図る。免れない場合は、発掘調査を実施して、記録保存を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

埋蔵文化財包蔵地の範囲内における建築・開発等に伴う、文化財保護法の届出・通知を年間約1100件程度受付し、そのうち約300件で確認調査(試掘)を実施した。その結果、埋蔵文化財が確認された場合には可能な限りの遺跡の保護に努めていただくように事業者側と調整を行った。また、遺跡に影響を与える場合は本格的な発掘調査(令和7年度13件)を実施し、記録保存に努めた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

開発行為に関して引き続き十分な事前協議を実施し、埋蔵文化財(遺跡)の保護の重要性・必要性の理解促進に努める。また、開発行為に伴う届出・通知の増加により確認調査の件数が増加しているため、調査の人員体制、スケジュール調整、作業内容の効率化等を引き続き進めていく。

状況を示す写真や資料等



確認調査(重機による掘削状況)



確認調査(遺跡の残存状況を確認)



工事立会(工事による遺跡への影響がないことを確認)



発掘作業(遺跡に与える影響が免れない場合に実施)

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	評価対象年度	
	年月日	令和7年度 掲載紙等
熊本城、国重文の宇土櫓の柱解体 第三の天守、32年度復旧へ	令和7年5月22日	共同通信
熊本城5つの櫓復旧へ 壁土の「練返し」 熊本地震で被災の国重文に使用	令和7年6月16日	熊本日日新聞
熊本城 馬具櫓石垣解体始まる クレーン車で「築石」運ぶ 39年度の復旧完了めざす	令和7年12月1日	熊本日日新聞
熊本城と共に歩んだ10年 日本料理店「城見櫓」 寄付総額1千万円に	令和8年1月7日	熊本日日新聞
熊本市南区の魅力見つけて 名所を巡るデジタルスタンプラリー 抽選で特産品プレゼント 12月31日まで	令和7年11月4日	熊本日日新聞
宮本武蔵テーマに光の演出 水前寺成趣園で夜間イベント 12月7日まで	令和7年11月17日	熊本日日新聞
かけがえのない文化財、火災に備えよう 「防火デー」に合わせ消防訓練 熊本市南区「熊本藩川尻米蔵跡」	令和8年1月20日	熊本日日新聞
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
歴史的風致に関連する報道・・・新聞に掲載された記事数7件		

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和7年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 第12回 熊本市歴史まちづくり協議会	
会議等の開催日時: 令和8年(2026年)3月17日(火)	
(コメントの概要)	
※別紙のとおり	
(今後の対応方針)	
※別紙のとおり	

## 【別紙】法定協議会等におけるコメント

(コメントの概要)

### 1. 歴史的建造物の調査・記録の充実

- ・歴史的建造物の修理にあたっては、補助金の有無や文化財指定の有無に関わらず、修理前の状態や修理の方法の履歴を記録として残していただきたい。
- ・被災文化財については、応急復旧が優先されてきた経緯を踏まえつつも、今後は原則として修理前調査を行っていただきたい。

### 2. 町屋・未指定文化財の保存に関する課題

- ・助成対象となった町屋や評価を受けた建物であっても、解体される事例が見られ、町屋保存の継続性が課題となっている。
- ・町屋は単体だけではなく、一定数が連続して残ることでもちなみとしての価値が高まるため、面的な保存につながる支援のあり方が求められる。

### 3. 市民・所有者の意識向上と評価のあり方

- ・市民や地域住民の意識の変化を把握し、施策評価に活用していくことが望まれる。
- ・助成の有無に関わらず、町屋オーナーが持っているプライドに対する賞のようなものを受賞できるといい。
- ・空家手帳などを活用し、空家オーナー本人や家族に建物の歴史や思い出を書き込んでもらい、その内容を町並み調査や街歩きガイドの際に活用していく取り組みがあると良い。
- ・世代交代の前から、町屋オーナー自身が意識を高められるような仕組みを作ってほしい。
- ・補助額や補助率を思い切って引き上げてもらわなければ、オーナーが前向きに取り組もうという気持ちにはなりにくいと思う。

### 4. 熊本地震 10 年の節目を踏まえた発信

- ・熊本地震から 10 年という節目を踏まえ、復興の歩みやその後の変化を整理し、次の 10 年に向けた歴史まちづくりの取組として活かしてほしい。

### 5. 観光施策・補助制度との連携

- ・国の観光関係補助制度等の補助事業を組み合わせることで効果を高めてほしい。NPO 法人や事業者自身が、申請できる補助もあるので、情報提供をしていただきたい。
- ・文化財、観光、都市分野等の関係部署が連携し、総合的な取組を進めることが重要である。

### 6. 情報発信について

- ・城下町や川尻地区など、それぞれの地域が有する歴史的背景や成り立ちを整理し、現在の事業と結び付けて発信していくといいと思う。
- ・古写真を VR 映像等に使用することで、地域の情報発信に役立つ起爆剤になると思う。

- ・重点地区の道沿いにあるベンチ等に、QRコード等を掲示して、その場で、歴史的な写真や映像を見れるというような情報提供の充実を図る。
- ・デジタル媒体に加え、紙媒体等のアナログな手法も組み合わせ、幅広い世代への周知を行う。

## 7.地域文化・祭りの継承支援

- ・地域や沿道店舗からの寄付を財源としている地域の祭りや伝統文化について、地域に新しく参入してきた店舗にも寄付金について理解してもらい、相互に支えあう地域循環を築きたい。
- ・地域の祭りや伝統文化について、担い手不足や継承の課題があることから、行政としても文化事業をバックアップしていただきたい。

(今後の対応方針)

### 1.歴史的建造物の調査・記録の充実

修繕前の状況を記録として残すことは、歴史的価値を将来に継承していく上でも重要であると考えており、十分に留意していきたい。

### 2.町屋・未指定文化財の保存に関する課題

今年度当初より、外観・町屋調査の実施にあたり、歴史まちづくり法人の関係者ととも現地を歩き、諸事情を伺いながら調査を行う取組を開始している。

また、町屋調査については、所有者の意向が把握できる内容を盛り込んだ委託業務を、各地区において実施している状況である。

### 3.市民・所有者の意識向上と評価のあり方

・助成の有無にかかわらず、所有者を対象とした表彰制度については現在検討を進めている。具体的な制度設計が整い次第、あらためて報告させていただく。

・所有者、行政、関係者それぞれが現在どのような状況にあり、何に課題を抱えているのかを、ある程度リアルタイムで把握できる仕組みがあると望ましいとの提案であったと受け止めている。

そのため、まずは歴史まちづくり法人やまちづくり関係者、地域の方々との対話を丁寧に重ねながら、情報交換を行っていく。併せて、関係部署が有する既存の仕組みやシステムなど、活用可能なものについては積極的に活用していきたい。

### 4.熊本地震10年の節目を踏まえた発信

・昔からあるストーリーだけでなく、近年10年で何が変わってきたというところについては、我々も重きを置いている。情報発信にいかせていければと思っている。

### 5.観光施策・補助制度との連携

・「地域の観光資源充実のための環境整備推進事業」については認識しており、国土交通省から事前調査や要望に関する情報共有を受け、これまでやり取りを行っている。

また、文化政策課や観光分野についても、補助制度の説明等を含めた情報共有を行っている。

今後は、NPO 法人や事業者に対しても、必要に応じて情報提供を進めていきたい。

#### 6.情報発信について

・歴史のストーリーを感じられる情報発信については、文化・観光分野や地域の方々との連携が不可欠であると考えている。そのため、関係者とのつながりをさらに広げながら、連携を深めていきたい。

・当課では、「歴まち360度」として、現地の様子をその場にいるかのように体感できるコンテンツを集約したWEBサイトを運営している。委員からのご意見に合った、道沿いに設置されたQRコードを読み取ることで、情報を簡単に取得できる仕組みは非常に利便性が高く、来訪意欲をそそる魅力的なアイデアである。今後の調査の中で所有者等に提案ができたらと思う。

#### 7.地域文化・祭りの継承支援

財源面については、国の補助金を確保できない事業について、市としてどのように財源を確保していくかは重要な課題である。歴史まちづくりに関するふるさと納税制度があるものの、現時点では都市デザイン課として独自に基金化するには至っていない。今後は、財政部局と協議を行いながら、当該制度を有効に活用できる方法について検討していく。併せて、予算を伴わずに取り組める施策が何かについても検討していきたいと考えている。